

別紙 1

論文審査の要旨

報告番号	乙 第 3104 号	氏 名	神山 勇太
論文審査担当者	主査 吉田 仁 教授		
	副査 村上 雅彦 教授		
	副査 瀧本 雅文 教授		
(論文審査の要旨)			
<p>大腸 T1癌の診療において、内視鏡切除後の病理診断で粘膜下層浸潤距離 1000 μ m 以上の浸潤を認めていた場合、ガイドライン上追加外科切除の適応である. しかし、多くの症例ではリンパ節転移を認めておらず、オーバーサージェリーが問題となっている.</p> <p>神山らは、外科的切除された T1 癌 568 例を対象に、粘膜下層浸潤距離と、リンパ節転移を含めた臨床病理学的特徴との相関を検討した.</p> <p>1000 μ m 以深への浸潤がない症例でもリンパ節転移を認め、粘膜下層浸潤距離はリンパ節転移のリスク因子ではなかった. また、浸潤距離以外の追加腸切除基準である脈管侵襲, 簇出, 低分化組織像を認めない症例では、1000 μ m 以深への浸潤を認めていても、リンパ節転移症例はなく、浸潤距離単独ではリンパ節転移のリスク因子にはならなかった. 浸潤距離は病変の肉眼型に左右され、隆起型で浸潤距離が優位に長かった. また、腫瘍の浸潤により中心が陥凹し浸潤距離が短くなる症例も存在した. 粘膜下層浸潤距離は再考の必要があり、浸潤距離以外のリンパ節転移リスク因子を検討する必要がある.</p> <p>本研究は大腸 T1 癌の浸潤距離測定の臨床学的問題点を明らかにしたことは新知見であり、極めて学術上価値がある研究であり、学位論文に値すると判断した.</p>			
論文題名:Practical problems of measuring depth of submucosal invasion in T1 colorectal carcinomas (大腸 T1 癌における粘膜下層浸潤距離測定の臨床学的問題点)			
掲載雑誌名:International Journal of Colorectal Disease 2016 年; Vol. 31, No. 1, P. 137-46			

(主査が記載、500 字以内)